ヤングケアラーの家庭が増えているようです・・・。

ヤングケアラーって聞いたことがありますか？
最近はテレビなどでも放映しているので、知っているという人は多いと思います。「ヤングケアラー」は一般的に、本来は大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものことと言われています。

国が行ったアンケート調査によると、小中高生の１７人に１人が該当していて、その中の半数がほぼ毎日ケアをしているとの結果が出ています。

その要因は、少子化や晩婚化、長寿化や核家族や一人親世帯の増加などという社会的変化だと言われているようです。

実際に私自身、共働きの親の代わりに祖父の介護をしている高校生を知っています。その子は、やりたい部活動も我慢して介護中心の放課後を過ごしているのです。その状況を、私の友人であるその子の父親から聞きました。

介護保険制度のサービスにも時間の限界があり、施設入所も費用的に難しいようで、親としても娘に悪いと彼は、自分の非力さを悔いていました。

昔のような大家族で生活していれば、介護の負担も手分けすることができますが、少子化で核家族だと一人の負担が大きくなりますよね。

国内で増え続けているこの問題の解決をどうすればできるのか？
「家族の面倒を看るのは当然」という社会認識もありますが、こういう子どもたちを支える社会的構造や社会的認識を構築していくことが大切だと、友人と話をしながら感じました。まずは、ヤングケアラー支援に向けての社会的認知度を拡げるほか、まずは現状の把握が必要です。

大内交流館はあらゆる相談に応じています。相談していただければ、ケースごとに市役所の福祉・介護・医療・教育などの関係機関に繋げることもできるのです。

あなたの身近にも「ヤングケアラー」がいることを知ってくださいね。

おばちゃん２